

陸上自衛隊 青野原駐屯地内演習場 チョウ・トンボ類棲息調査

立岩幸雄¹⁾

【調査日、時間】

2024年6月9日(日) 10:00～12:00

【天候、気温】

曇り時々小雨, 調査開始時 19℃, 調査終了時 20℃

【具体的調査地】

青野原演習場内皿池および平池 周辺

【調査者】

山下公明(あびき湿原保存会会長)

柴田剛(日本自然保護協会自然観察指導員, NPO 法人 野生生物を調査研究する会 理事)

東輝弥(日本トンボ学会, NPO 法人こどもとむしの会)

久保弘幸(NPO 法人こどもとむしの会, 加古川の里山・ギフチョウ・ネット)

藤原いずみ

立岩幸雄(日本鱗翅学会, 加古川の里山・ギフチョウ・ネット)

【同行案内者】

陸上自衛隊青野原駐屯地 広報担当 中山以足

【目的】

兵庫県東播磨地域のなかで大規模な草地および疎林環境が残る同演習地において, 現在どのようなチョウ,

トンボが棲息しているか現地に出向き調査したものである。特に演習地内に点在している多くの池の周辺は広範囲にカヤ類, スゲ類が繁茂する湿地草原が広がっており, 6月初旬のこの時期に発生するヒメヒカゲ(*Coenonympha oedippus*: 環境省 絶滅危惧 I 類 CR + EN, 兵庫県レッドリスト A ランク) が棲息しているかを確認するために調査を行った。

【調査当日における現地の状況】

調査日当日の朝まで降り続いていた雨のため, 調査開始時においては, 野外全域が濡れており, 湿度も高かった。表土が露出しているところを歩くと, すぐに泥化し, ぬかるんで足を取られるような状況であった。また各池の水量が増し, 本来草地であるところが水没して, 池の面積が大きくなっていった。調査開始時点で 19℃しかなく, 肌寒さは感じなかったものの, この時期としては低温であった。もちろん陽光は差さず, どんよりとした曇り空で今にも雨が降り出しそうなあいにくの天候であった。

【調査】

皿池の周りには広範囲に草地が広がり, ヒメヒカゲの棲息に適していると思われる環境であったが, 本種は確認できなかった。

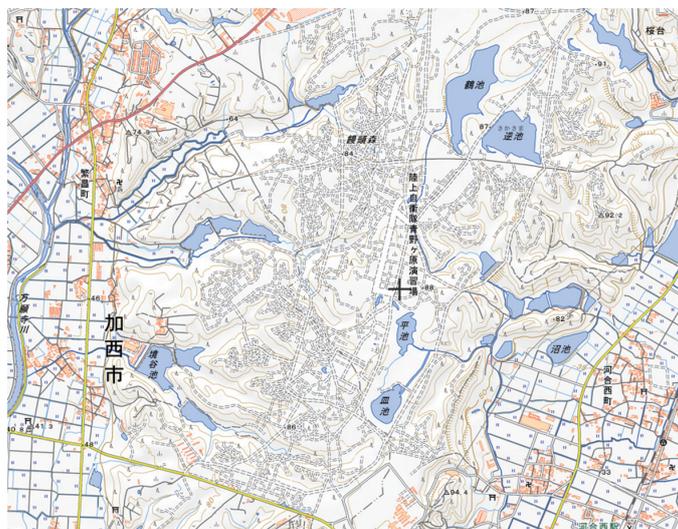


図1. 演習場全図 中央下段に皿池, 平池が見える。 * 出展: 国土地理院地形図。

¹⁾ Yukio TATEIWA 兵庫県加古川市



図 2. 調査写真.



図 4. 調査当日, 平池周辺の草地で確認したウラギンスジヒョウモン♂



図 3. 調査写真.

実際に確認できた種

チョウ類

- ツバメシジミ (*Everes argiades*)
- キタキチョウ (*Eurema hecabe*)
- サトキマダラヒカゲ (*Neope goschkevitschii*)
- モンキチョウ (*Colias erate*)
- ヒカゲチョウ (*Lethe sicelis*)

トンボ類

- アオイトトンボ (*Lestes sponsa*)
- *特に羽化から時間が経っていない未成熟個体多い
- ハラビロトンボ (*Lyriothemis pachygastra*)
- ホソミイトトンボ (*Aciagrion migratum*)

その他

- ハマベアワフキ (*Aphrophora maritima*)

平池周辺の状況も基本的に皿池と同じ.

実際に確認できた種

チョウ類

- ベニシジミ (*Lycaena phlaeas*)
- ヒメウラナミジャノメ (*Ypthima argus*)
- ウラギンスジヒョウモン (*Argyronome laodice*)
- コジャノメ (*Mycalesis francisca*)
- オオチャバネセセリ (*Zinaida pellucida*)

トンボ類

- ハラビロトンボ (*Lyriothemis pachygastra*)
- ショウジョウトンボ (*Crocothemis servilia mariannae*)
- キイトトンボ (*Ceriagrion melanurum*)
- ヤマサナエ (*Asiagomphus melaenops*)

【調査評価, 考察】

チョウ類において, 東播磨の草原のチョウを代表するウラギンスジヒョウモンの棲息を確認できたことは収穫であったが, ヒメヒカゲ, ウラナミジャノメ (*Ypthima multistriata*) は確認できなかった. 正直な気持ちとして, “これだけの環境が残っているのになぜいけない?!” と感じた.

また, トンボ類においても, ベッコウトンボ (*Libellula angelina*) は無理にしても, せめてハッチョウトンボ (*Nannophya pygmaea*) くらいはいるのではないかと期待していたが, それもかなわなかった.

当日の気象条件が調査に適さず, 種数, 個体数とも好天時に比べ極端に少なかった可能性は否定できないが, 今回の貧弱な調査結果はある意味, 予想外であった.

同演習地の北部に位置する鶴池, 逆池では, 十数年前ヒメヒカゲが多産していた確かな情報を得ているが, 今回の調査において, エリア的に調査の許可が下りなかったことは残念である. また, かつてキマダラルリツバメ (*Spindasis takanonis*) が多産していた, 最北部の疎林にも近づくことすらできなかった.

今回の調査のみでは当地の自然環境の全貌をつかむには程遠く, 今後も時期や年度を変えて調査を継続していく必要を強く感じる.

最後に, 今回の調査において, 快く許可をいただいた駐屯地指令の栗田千寿様, 当日我々に同行し案内いただいた広報の中山以足様にはこの場を借りてお礼申し上げます.